

---

# 1. 全体編

## 1-1. AI概要(1～3時限目)

### 1. 理解度

- 「理解できた」「どちらかといえば理解できた」が多く、全体的にAIの概要について一定の理解が得られたようです。
- 具体的には「画像生成AI」「チャット型AI」「画像認識AI」など、実演や体験を交えた部分を通して「AIがどのように動いているのか、多少イメージできた」という意見が見られました。

### 2. 難しく感じた部分

- 「深層学習とは何か」「AIが誤って認識する原因」など、内面の仕組みがやや専門的でわかりにくかったという回答が散見されました。
- 「画像認識AIを作る」体験でも、「AIがどう学習しているかイメージしにくい」「データの集め方や量によって結果が変わる」などの気づきや難しさが報告されています。

### 3. 興味を持った内容

- 「画像生成AI」に強く関心をもつ回答や、「AI合成写真(Pa写)を使った体験が面白かった」という感想が目立ちました。
- 「チャットAI」に対しては「会話ができて楽しかった」という声があり、質問の仕方によって答えが変わる点を興味深く感じた学生が多いようです。

### 4. 今後の活用・可能性

- レポート作成・情報検索などで「AIを使ってみたい」と思った学生が一部おり、特に「入力(質問の仕方)を工夫すれば有用な答えが得られる」という認識が広がっています。
- 「AIの誤認を体験した」ことで、AIを頼りにしすぎるのではなく、正しく使いこなす工夫が必要だという声もありました。

---

## 1-2. 考える・伝える(4～5時限目)

### 1. 考えることへの意識

- 授業前は「どちらかといえば意識していない」「何となく考えている程度」という学生が一定数いましたが、授業を受けて「いろんな視点から物事を見直す」「思い込みだけで判断しない」という気づきを得たという回答が複数見られます。
- 「変わらない」と答えた学生もいますが、その理由としては「自分なりに普段から頭を使っていると思う」など、もともと意識していたため変化を感じなかった可能性があります。

## 2. 伝えることへの意識

- 「客観的」「主観」「先入観」「曖昧」といったキーワードを学んだことで、「自分では当たり前だと思っけていても、相手に伝わるとは限らない」といった認識が広がった様子です。
- 「偏見」「思い込み」などが相手に与える影響について意識するコメントや、「曖昧な言い方だと正しく伝わらない」との学びが複数の回答で確認されました。

## 3. 今後の活用イメージ

- AIとのやりとりでも「指示を曖昧にすると正しく動いてくれない」ことを体験しており、普段のコミュニケーションにおいても「曖昧や先入観を減らし、論理的に伝える」必要性を感じる学生がいるようです。
- 「物事を説明する際、客観的な根拠を示す」「話を整理してから伝える」という意識が高まり、レポート・プレゼンテーションで実践しようとする声も見られます。

---

## 2. 情報技術科編

本アンケートの回答には「情報技術科」という学科に紐づく区分はありませんでしたが、全体が同科と想定してまとめた内容です。回答内容に記載された範囲で、情報技術科の学生特有と思われる興味や得られた学びを整理します。

### 1. AI技術への興味

- AIの仕組み全般に対して「プログラム」「データの学習」に関心を示す回答があり、技術的な基礎を学びたい意欲がうかがえました。ただし、アンケート内では具体的なプログラミング言語や開発環境への言及は見られません。
- 「AIが誤った結果を出す例」を実際に確認し、「どのようなデータを与えたら学習精度が上がるのか」に興味を持った回答もあります。

### 2. 思考や伝達における気づき

- 情報技術科の学生という前提からか、AIとのやりとりにおいて「正確な指示を与えることが必要」という認識がいくつかの回答のなかに示されています。
- 「考える」「伝える」スキルについては「相手の視点を考慮しないと、情報が正しく届かない」という学びがあり、これはプログラムを書く際のコメント・仕様書作成にも通じる意識として受け止めている学生がいるようです。

### 3. 今後の活用や可能性

- レポートや資料づくりにAIを活用したいという声が複数上がっている一方、「AIだけに頼るのではなく、自分で考えて確認する姿勢が大事」とする回答も見られました。
  - 情報技術科ならではのプログラム作成やシステム構築にAIを組み込みたいという具体的な声は、アンケート内でははっきりとは確認されませんでした。今後の授業・部活動などで発展可能な素地はあると考えられます。
-

### 3. まとめ

#### 1. AI概要への理解と活用意欲

- 受講を通じて「AIは難しそうで意外と身近」「活用次第で便利」という認識が高まった一方、「内部の仕組みを深く理解するにはもう少し時間や勉強が必要」と感じた学生もいるようです。
- レポート・資料作成などでAIのサポートを取り入れてみたいという意見があり、学習や作業効率を上げるツールとして関心が高まっています。

#### 2. 考える・伝える力の重要性

- AIの体験と並行して、主観や先入観にとらわれない「客観的視点」の大切さ、情報をはっきり・正確に伝えることの難しさを実感した学生が多いです。
- 今後は普段の授業やコミュニケーションの中で、曖昧な表現を減らし、相手に誤解なく伝える工夫を続けられれば、学習の質向上にもつながると期待されます。

#### 3. 情報技術科ならではの発展性

- アンケートからは情報技術科の学生特有の「AIプログラムに興味を持つ」「精度向上のためのデータの扱いに着目する」ような意識が一部読み取れました。
- 今後、プログラミングの授業や部活動などでより具体的にAIを導入・活用する機会があれば、今回の体験を活かしてさらに理解を深められる可能性があります。